

「日本三大洋食」の名付け親は クイズ番組の解答者だった

一九四六年十二月三日は、日本で初めてのクイズ番組である『話の泉』がNHKラジオで始まった日。

ラジオ時代の当時は、音楽やドラマに次ぐ新しい娯楽番組としてクイズは注目され、NHKでは『二十の扉』『私は誰でしょう』、民放では『バイバイ・ゲーム』『ぴよぴよ大学』などが続いて誕生し、高い人気を集めた。

続くテレビ時代になると、『ズバリ！当てましょう』に始まり、『アップダウンクイズ』『タイムショック』などの視聴者参加番組が登場し、子供から高齢者まで楽しめる番組として親しまれた。

この『話の泉』はそのような形での一般参加番組ではなく、聴取者が博学多識で知られる著名人に難問をだして挑戦し、それに対し解答と蘊蓄うんちくを傾けるといふものであった。

常連解答者の二人に映画監督の山本嘉次郎（一九〇二〜一九七四）がいた。

彼は黒沢明の師匠にあたる人で、戦前・戦中に『藤十郎の恋』『馬』『加藤隼戦闘隊』などの傑作を撮っている。

戦後はエッセイストとしても活躍し、なかでも食にまつわる話でその博識多才ぶりを印象

づけた。

彼の食に関する功績のなかで最も有名なのは、「日本三大洋食」というものを定義したことだろう。

それは「ライスカレー、コロッケ、トンカツ」で、これこそ日本が世界に誇る類をみない独創的なものとして高く評価している。

今でこそ、ごくあたりまえにこれらの料理を食べているが、日本人の口に合うように長年にわたって改良を続けてきた先人の努力には頭の下がる思いがする。

「洋食」というのは単なる西洋料理ではなく、肉料理を主体としながらも、あくまでも米のご飯と結びついたものである。

それだからこそ現代でもすたれずに、高い支持を得ているのだろう。

